

2016(平成28)年度 第62回全国青年問題研究集会 開催要項

～すべては語り合いから始まる～

市町村合併や過疎・高齢化、青年組織や団員の減少、こうした地域の問題と、仕事や恋愛、地域活動などの日々の暮らしの問題は密接に関わっています。全国青年問題研究集会は、地域や暮らしの問題、そして一年間の実践をレポートに書いて持ち寄り、ひとりの問題をみんなの問題として考える場です。笑ったり泣いたりもしながら語り合うことを通して、複雑に絡み合った問題を少しでもほどこき、解決のための糸口を見いだしていく時間です。

忙しい日々のなかで、仕事や家庭、活動に追われるように暮らしていませんか。なぜ、地域活動に取り組んでいますか。活動の原点に立ち返り、また新たなスタートを切ることができるよう、第62回全国青年問題研究集会を開催します。

1. 期 日 2017(平成29)年3月3日(金)～5日(日) (2泊3日)
2. 会 場 山中湖畔荘「清溪」
〒401-0502 山梨県南都留郡山中湖村旭日丘
3. 主 催 日本青年団協議会、一般財団法人日本青年館
4. 後 援 文部科学省 公益財団法人あしたの日本を創る協会 社会教育推進全国協議会 自治体問題研究所 全国地方新聞社連合会 日本社会教育学会 山梨県教育委員会 山中湖村教育委員会 NHK 時事通信社 山梨日日新聞社 テレビ山梨
(以上申請中)
5. 参加経費 ○参 加 費 6,480円 (学生 3,240円)
○レポート集 2,700円(予定)
○宿 泊 費 無料(リネン代実費 1泊あたり1,000円)
○食 費 朝1,080円、昼1,080円、夜2,268円
○交 流 会 費 実費(詳細は追ってお知らせいたします)
○バス代金 片道500円(主催者手配バスに乗車する場合)
※上記の金額はすべて消費税込み。分科会によってはフィールドワークに出る場合があり、その際は別途実費がかかる場合があります。
6. 参加対象 (1) 日本青年団協議会正会員の推薦を受けた方
(2) 日本青年団協議会の推薦を受けた方 など ※年齢は問いません。
7. 申込方法 (1) の参加者
道府県青年団を通して、下記を添えてお申し込みください。
①道府県別一括申込書(所定)
②個人プロフィール票(所定)
③レポート(所定)

(2) の参加者
上記②～③を添えて日本青年団協議会に直接申し込んでください。
8. 申込締切 2017(平成29)年1月27日(金) 必着

9. 講演

大野木 龍太郎氏（浜松学院大学教授）

10. 実践報告

今年度における青年集団の活動の中から特徴的な取り組みを抽出し、ご報告いただきます。

（想定報告案）

- ・青年団再生の取り組み
- ・継承募金の取り組み
- ・青年大会の取り組み
- ・実践大賞から選定

※青年活動支援者フォーラムとの併催となります。

11. 分科会の構成

この集会はテーマ別に構成した分科会が中心となります。分科会には司会者と助言者がいます。司会者は日青協執行部役員、道府県青年団役員、（一財）日本青年館職員などが務め、参加者によるスムーズな討議ができるよう進行します。助言者は青年団OB・OGをはじめ、地域活動の専門家や研究者が務め、参加者が抱える課題や討議に対する助言を行います。

分科会テーマは16程度で、ひとつの分科会に5～6名程度、それ以上となる場合は同一テーマでの分割を想定しています。想定するにあたり、従来の傾向により下記のようにあらかじめ内容を想定し、提出されたレポートの内容と参加者の希望をもとに編成することを原則とします。

第1部門 暮らしを豊かにするために

生きていくなかには様々な嬉しいことや辛いこと、心配なことがあります。「仕事が大変で時間がない」「親に結婚を催促される」「彼氏・彼女にフラれた」「お金がない」。そういった課題を笑ったり泣いたりしながらも真剣に語り、暮らしを少しでも良くするために社会を見つめ、自分たちにできることを探していくのがこの部門です。

想定するレポート：仕事の楽しみや活動との両立、結婚や恋愛の問題や活動との両立、震災の体験や支援活動など

第2部門 実践に学び、次の一步を踏み出すために

全国の青年団・青年団体では、地域に根づいた様々な活動が展開されています。各地の仲間が集まるこの機会に、互いの活動を知り、学び合い、今後の活動を考えていくのがこの部門です。「毎年やっている事業の意義を考えたい」「新しいイベントを始めた」「青年大会の実行委員を増やしたい」。そうした報告に基づいたレポートを持ち寄りましょう。

想定する実践レポート：青年大会、青研集会、平和活動、教宣活動

第3部門 青年団を未来につなげていくために

それぞれの団体にはそれぞれの良さがあり、課題があります。「県団ってどんなところ？」「団長の後継者がいない」「新入団員がたくさん入った」「こんな青年団にしたい」。そうした組織づくりにかかわる様々な問題を話し合い、未来の地域活動の道を切り開いていく部門です。

想定するレポート：新入団員獲得の取り組み、リーダーとしての心構え、青年団の役割

12. レポート

分科会を充実させるために、自身が抱えている課題や地域での活動の様子に加え、その時に感じ

たことや仲間の言葉、活動の成果などを具体的に書いて下さい。また、社会問題の評論や仲間の中傷ではなく、あなた自身がこの1年の活動に対して「どんな目的を持ち、どのような実践を行った結果、どんな成果や課題があったのか」を振り返りながら所定の様式のレポートにまとめてください。提出の際は下記の点にご注意ください。

- ①提出するレポートをそのままレポート集の版下原稿にするため、E-mailで送付してください。FAXでは受け付けられません。
- ②レポートは必ず所定の様式にパソコンなどで入力したものを送付してください。所定の様式以外は受け付けられません。「タイトル」「都道府県名」「氏名」「年齢」「職業」「所属団体名」「活動年数」を冒頭に必ず記載してください。
- ③原稿はA4サイズ1枚から2枚程度とします。
- ④締め切りまでにレポート提出のない方は、分科会では原則オブザーバーとなります。分科会の中での発言の可否は、分科会の中での判断となります。

13. 交通手段

【主催者バスをご利用の場合】

①東京発 3月3日（金）13時 東京駅集合

②名古屋発 3月3日（金）11時 名古屋駅集合

※いずれも長い休憩をとる時間がないため、昼食は済ませてくるか、持参しバス内でとってください。

【自力で向かう場合の公共交通機関（例）】

①東京発（バス）

バスタ新宿—（富士急行バス 富士五湖～新宿線）—山中湖旭日丘—（徒歩10分）—清溪

②東京発（電車＋バス）

東京駅—（JR中央線）—大月駅—（富士急行）—富士山駅—

—（富士急行バス 河口湖線）—文学の森公園前—（徒歩1分）—清溪

③名古屋発（バス）

名鉄バスセンター—（富士急行バス 富士山駅・河口湖～名古屋線）—富士山駅—

—（富士急行バス 河口湖線）—文学の森公園前—（徒歩1分）—清溪

④名古屋発（電車＋バス）

名古屋駅—（JR新幹線）—三島駅—（富士急行バス 三島線）—御殿場駅—

—（富士急行バス 河口湖線）—文学の森公園前—（徒歩1分）—清溪

14. 日程

時間	3月3日(金)	3月4日(土)	3月5日(日)	
9:00			分科会	
10:00		分科会		
11:00		分科会	全国地域青年実践大賞・ 全国青年団教宣コンテスト表彰式	
12:00	<名古屋集合>		昼食・休憩	エンディング
13:00	<東京集合>	分科会	昼食・移動	
14:00	移動		<東京到着>	昼食・移動
15:00				
16:00	受付			
17:00	実践報告			<名古屋到着>
18:00	夕食 打合せ(司会者・助言者のみ)	休憩 打合せ(司会者・助言者のみ)		
19:00		夕食交流会		
20:00	講演			
21:00		フリースペース		
	フリースペース			

※プログラムは都合により変更になる場合があります。

※この事業は「2016年度青年活動支援者フォーラム」と同時開催します。

15. 申込・問合せ

日本青年団協議会 組織部 (担当：釜澤、高嶋)

〒150-0001 東京都港区虎ノ門3-23-6 秀和虎ノ門三丁目ビル4階

TEL: 03-6452-9025 FAX: 03-6452-9026 Email: soshiki_kyosen@dan.or.jp